

WE DO HOW WE MOVE

私たちが まちを 動かす

UDCO(アーバンデザインセンター大宮)は、
大宮駅周辺のまちづくりを推進するため、
2017年に設立された専門家集団です

私たちは、建築や都市計画をバックグラウンドに持ち、
専門性を活かした知見により
「戦略をもって現場を動かす」ご提案をします

企業、行政、研究・教育機関、市民など多様な
主体が集い、学びと実践を共有する「まちラボ
おおみや」を運営する専門家集団として活動。
ストリートでの実践を積み重ねながら、まちを
動かす持続的な仕組みをデザインしています。



沿革と実績
UDCOは2017年の設立以来、まちづくりの
課題を分析し社会実験を企画、その成果を
制度設計や運営スキームまで橋渡しする都
市再生推進法人としてさいたま市より指定を
受け、大宮を拠点に活動してきました。その
実践の蓄積は、開かれた知見として「UDCO
REPORT」にまとめ、提供・発信してきました。



工藤和美 — センター長
東洋大学教授 シーラカンス K&H 主宰

東京大学大学院博士課程修了。1986年シーラカンスを共同設立、1998年シーラカンスK&Hに改組、現在代表取締役、東洋大学教授。建築家として「博多小学校」(福岡市)や「金沢海みらい図書館」(金沢市)など、地域のニーズや潜在的なまちの力を引き出す公共建築に取り組んできました。大宮では東洋大学の教員としてまちづくりに関わり、「さいたま市役所大宮区庁舎」の設計も手がけてきました。UDCOセンター長として、産官学民の知恵を束ね、ストリートから都市の魅力を育み、他都市へも広がる知見を発信していきたいと考えています。



藤村龍至 — 副センター長 ディレクター
東京藝術大学准教授 RFA 主宰

建築家/東京藝術大学准教授。1976年東京生まれ。2005年よりRFA(藤村龍至建築設計事務所)主宰。2008年東京工業大学大学院博士課程退学。2016年より東京藝術大学准教授。2017年よりアーバンデザインセンター大宮(UDCO)ディレクター。主な建築作品に「すばる保育園」(2018年)、「十津川村災害対策本部拠点施設」(2023年)ほか。愛知県岡崎市、埼玉県所沢市、台東区上野、福岡県古賀市などで公有地活用による中心市街地活性化に取り組んできました。さらに、埼玉県鳩山町の鳩山ニュータウン、所沢市の榊峰ニュータウン、神戸市のポートアイランドにおいてニュータウン活性化を手掛けています。



内田奈芳美 — 副センター長 ディレクター
埼玉大学教授

ワシントン大学修士課程修了、早稲田大学理工学研究科博士課程修了。博士(工学)。金沢工業大学講師などを経て、2014年から埼玉大学人文社会科学部研究科教授。主な著書に「ネイバーフッド都市シアトル:リベラルな市民と資本が変えた街」(2025年、学芸出版社)、「金沢らしさとは何か」(2015年、北國新聞社、共同編集)など。地元埼玉大学の教員としてこれまでUDCOを軸としてさいたま市のまちづくりや委員会に関わってきました。都市の価値についての研究実績を踏まえて、その場所「らしい」まちづくりのあり方をしかけていければと思います。



石黒卓 — サブディレクター/デザインコーディネーター
北海道大学学術研究員・非常勤講師 WIPSTUDIO 主宰

北海道大学大学院工学研究院建築都市空間デザイン専攻修了。建築の設計監理や都市計画・公共空間マネジメントの支援に携わり、建築・都市領域の計画/設計/マネジメントのトータルなデザインを専門としています。WIPstudio一級建築士事務所主宰、UDC 苫小牧コーディネーター、NTTアーバンデザインプログラム講師。大宮では公共空間からまちを活性化させるため、仕組みづくりの実践と研究を続けています。



高橋卓 — デザインコーディネーター
武蔵野美術大学非常勤講師/STAND 主宰

群馬県生まれ。東京理科大学大学院修了。建築設計事務所を経て、株式会社ロフトワークにて共創空間立ち上げのプロジェクトマネジメントに従事。2022年よりSTAND主宰、2024年から武蔵野美術大学非常勤講師。2021年より現職にて、ストリートデザインスクールの企画運営を中心に、公共空間利活用と地域の取り組みへの伴走と連携に取り組んでいます。小さな実践を積み重ねることで、まちに関わる人々のネットワークを育み、まちの可能性を広げていきます。



酒井伸子 — デザインコーディネーター
九州芸術工科大学(現:九州大学)芸術工学部工業設計学科でパブリックデザインを専攻。株式会社コトブキにて、公共空間における遊び場のプロダクトデザインやインクルーシブ・プレイグラウンドのディレクションに携わってきました。2023年よりUDCOに参画。

大宮に暮らす三児の母として、生活者ならではの視点を活かし、子どもと過ごしやすいまちづくりや、地域の方々が気軽に関われる場づくりに取り組んでいます。

わたしたちは
ストリートでの試行錯誤から
「戦略」をデザインする
アーキテクトです
アーバンデザインセンター大宮(UDCO)は、
街路での試行錯誤と
データに基づく分析を接続し、
社会実験から制度設計まで、
あなたのまちの
「まちづくりのデザイン」に伴走します

わたしたちは、ストリートを単なる街路ではなく、
空間・社会・経済・文化を繋げるまちの骨格としてとらえ、まちを動かしていきます

公有地活用を デザインする

全国各地で都市再生やエリアマネジメントが語られるなか、公共空間をどう活かすかは多くの自治体に共通する課題です。民間のセンスを取り込み、公有地の経済を活性化させることで、民有地の価値も高めるローカルエコノミーの発想が必要とされます。動かないまちには必ず動かない理由があり、その要因を明らかにすることが次の一歩を設計する基盤となります。



構造を見る

ストリートでの取り組みは一見小さな実践に見えますが、実際には空間や社会の「構造」を見据えた戦略的な選択です。場当たりの活動ではなく、まち全体に波及する可能性を見越した仕掛けが重要です。街路は都市の基盤であり、ここでの試行は小さな戦術に見えても、結果的には都市スケールでの戦略につながります。

成功と失敗の あいだから学ぶ

駅前再開発や広場整備の停滞は、多くの自治体が直面する現実です。私たちは、その「遅れ」をむしろ学びの時間ととらえ、公共空間での小さな実験を積み重ねてきました。成功も失敗も含めた蓄積が、まちの動かし方を再考する契機となり、新しい方法論の開発につながっています。停滞から得られる知見こそ、次の課題解決の資源となります。



STREET STRATEGIES

ストリートからまちを動かす
戦略のデザイン

[UDCO NOTE]

2026年3月30日発行 | 編集・発行:アーバンデザインセンター大宮(UDCO) | デザイン:neucitora
アーバンデザインセンター大宮 | URBAN DESIGN CENTER OMIYA
330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町1丁目60番地 大宮ラクーネ 8階まちラボおおみや内
TEL: 048-782-9679 | FAX: 048-782-9680 | E-MAIL: info@udco.jp
WEBSITE: www.udco.jp | Facebook: www.facebook.com/UrbanDesignCenterOmiya/
X: twitter.com/udco_info | Instagram: www.instagram.com/udco_info

まちを どう 動かすか

ゴールイメージ よりも プロセスから 考える

OUR SITES

どんな現場で何を解決したのか

私たちがいろいろなストリートの現場で、どんな課題があり¹、どんな支援をし²、どんな成果や波及効果が得られた³のかをご紹介します

OMIYA STREET TERRACE @西通り線

[現場1] ガードレールに困われた空地

空地や駐車場で失われたにぎわいを、道路予定区域を“使いながらつくる”街路へ転換。

- 地域の課題** 大宮の中心部近くの道路予定区域は、空地や駐車場として使われ、十分に活用されていませんでした。道路整備を見据えつつも、地域のにぎわいと沿道の関係性を取り戻す工夫が求められていました。
- UDCOの支援内容** 主要回遊動線に位置付けた街路にストリートテラスを導入。道路を「つくりながら使う」実践の場として、地域住民や沿道事業者が主体的に関わる仕組みを設計しました。
- 成果・波及効果** 地域関係者は利用者から主体的な担い手となり、沿道の魅力がさらに共有されました。将来の道路整備に向けた合意形成や地域経営の基盤づくりにもつながりました。



OMIYA STREET TERRACE @一番街

[現場2] つながりの減った商店街

老朽化が進んだアーケード商店街を、軒先1mの工夫で売上と関係性を取り戻す場へ。

- 地域の課題** 駅前のアーケード商店街は、かつてのようなつながりを失い、にぎわいと関係を取り戻す方が求められていました。
- UDCOの支援内容** 軒先1mのスペースを戦略的に活用するために、コロナ占用特例を応用。活用のための1mのラインをひき、バナーフラッグやうちわなどの設えをコーディネートすることで、商店街全体の取り組みであることを視覚的に伝える仕掛けを施しました。
- 成果・波及効果** 外部空間活用で売上が向上し、店長同士によるLINEグループが生まれるなど、商店街の自発的なネットワークが育まれました。補助金型のにぎわいづくりから一歩踏み出し、持続的な関係を取り戻す基盤が築かれました。



STREET PLANTS PROJECT @中央通り

[現場3] 座る人の少なかった街路脇のベンチ

使われていなかったベンチを、小さな植栽で居心地のよい滞留空間に。

- 地域の課題** 駅からまっすぐ伸びるメインストリートの歩道部に設置されたベンチは十分に使われず、交通量の多い車道に面した歩道部分では快適な滞留環境を生みにくい状況でした。
- UDCOの支援内容** 植木事業者と連携し「買える植栽」を展開するストリートプランツを導入。小さな植木を滞在空間と共に配置することで、緑の魅力や地域産業を伝え、沿道のコミュニティと協働して維持管理する仕組みを整えました。
- 成果・波及効果** 滞留環境が改善され、居心地のよい空間へと変化しました。さらに、地元民間企業と行政が緑を増やすことに協力する資金スキームが形成され、空間の質と維持を両立する持続可能なモデルが生まれました。



OMIYA STREET WARDROBE @大宮門街前歩道部

[現場4] 人が滞留しにくい再開発ビルの広場

活用されにくかった広場に、古着文化と緑を取り入れ、親子でつづろげる場を創出。

- 地域の課題** 歩道の拡幅と接続した再開発ビルの広場整備が進んだものの、利用イメージが当初確立せず、人が立ち寄りづらかったため、十分に活用できていませんでした。
- UDCOの支援内容** 大宮の魅力である、古着店の集積に着目し、ストリートカルチャーの要素を取り入れ、「古着市」としてまちの魅力を発信する社会実験をメインストリートに展開しました。
- 成果・波及効果** 植栽と仕器が組み合わせられた風景が生まれ、人々の交流の場となりました。歩道空間が地域文化を媒介する場へと転換し、公共空間活用の可能性を示しました。再開発広場との連携もすすみ、大宮の魅力との出会いにつながりました。



BACK STREET DANCE PARK @大栄橋高架下周辺

[現場5] 人通りの減った裏路地

喫煙や治安に懸念のあった高架下を、ダンスの舞台に転換、環境改善と文化活動を両立。

- 地域の課題** 駅周辺の跨線橋で工事が長引き、暗さや滞留など環境面への懸念がありました。駅に近接した魅力ある立地であることから、より積極的な活用のアイデアが求められていました。
- UDCOの支援内容** 駅周辺に集積するダンススクールと連携し、若者文化を活かした利用方法を検討。ストリートダンスを通じて場所の新しい使い方を提示しました。
- 成果・波及効果** 普段は人通りの少ない路地空間も活用し、にぎわう風景を見せることで、若い世代の表現活動を取り込むことが、公共空間の課題解決につながる実例となり、地域にとっても新しいアイデアをもたらしました。



OUR STRATEGY

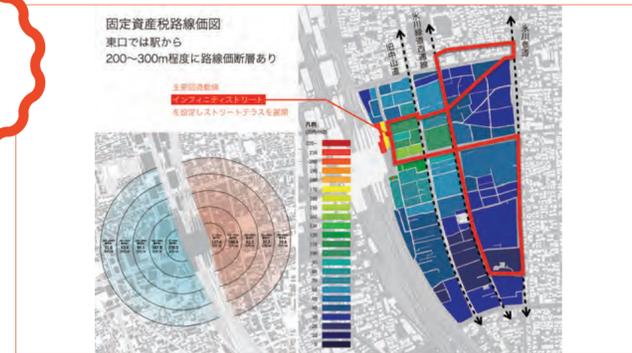
ストリートでの 学びから 得られた 4つの戦略

ストリートでの実践をもとに、研究だけでなく、プランだけでなく、イベントだけでなく、まちを動かすために最適な戦略を立案します

ストックと人流の実態から、
設定された戦略軸と取り組み

【戦略1】 空間構造から 読み解く

1

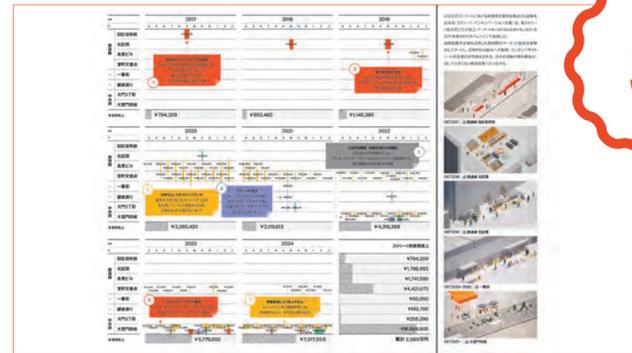


エリア全体を漠然と対象にするのではなく、
取り組み場所を毎年度ごとに選定し、集中的
に試行を行います。これを連続させることで
主要な回遊動線を構成し、都市空間全体に
広がる効果を生み出していきます。新しい動
きが芽吹きそうなストリートを狙って仕掛ける
ことで、限られた資源でも戦略的に都市構造
を動かすことが可能になります。

消費と投資の実態調査から、
地域経済循環を設計

【戦略3】 経済構造から 読み解く

3

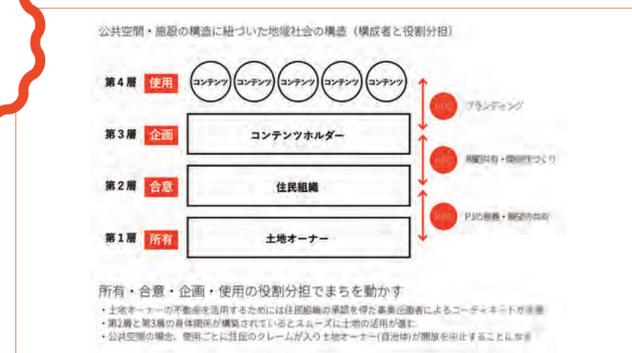


短期的な収益を追うのではなく、地域経済を
循環させる仕組みを重視します。例えばキッ
チンカーの生態系を調査することで消費者
ニーズを把握し、そこからストリートを起点と
した小商い(=インキュベーション)を育てます。
これにより、公共空間が地域経済の新たな実
験場となり、循環型の経済構造を構築するこ
とができます。

コミュニティの4層構造を可視化し、
キーパーソンと共創

【戦略2】 社会構造から 読み解く

2



地域社会は「土地オーナー」「住民組織」「コ
ンテンツホルダー」「コンテンツ」という4層
構造で成り立っています。UDCOはこの構造
をリサーチし、各層のキーパーソンを見出す
ことで、課題の解決に直結する連携を組み立
てます。例えば、空き店舗の解消も単独の事
業者では難しくても、4層の役割を可視化す
ることで、課題解決のためのプラットフォーム
構築につながります。

地域の「らしさ」を発見し、
街路文化に接続

【戦略4】 文化構造から 読み解く

4



まちには一見すると見過ごされがちな「隠れ
た集積」があります。これを探し出し、可視化
することで新たな価値を生み出します。さら
に、ストリートでの活動そのものを文化として
育てることにより、その地域ならではの「らし
さ」を構築できます。文化的な集積は、まちを
持続的に魅力づける源泉となります。



WE DESIGN

私たちが ご提案 できること

私たちは、まちの活性化につながる
「ストラテジー」「ストリート」「パートナーシップ」をデザインします

【業務実績資料】

平成29年度 ●アーバンデザインセンター大宮運営業務
●大宮駅周辺地区におけるデザイン調整等検討業務

平成30年度 ●アーバンデザインセンター大宮運営業務
●大宮駅周辺地区におけるデザイン調整等検討業務
●氷川参道歩行者専用化ワークショップ等運営業務
●大宮駅周辺地域戦略ビジョン(連鎖型まちづくり)推進検討業務

平成31年度 ●アーバンデザインセンター大宮運営業務

令和元年度 ●大宮駅周辺地区における
デザイン調整ワーキング等運営等支援業務

令和2年度 ●大宮駅周辺地域戦略ビジョン推進業務
●大宮駅周辺地区まちづくりガイドライン作成・
デザイン調整ワーキング運営支援業務

令和3年度 ●大宮駅周辺地域戦略ビジョン推進業務 令和3年度

令和4年度 ●大宮駅周辺地域戦略ビジョン推進業務
●大宮駅周辺緑化滞在空間社会実験等検討業務
●官民連携まちなか再生推進事業 普及啓発事業
運営業務(国土交通省)

令和5年度 ●大宮駅周辺地域戦略ビジョン推進業務
●大宮駅周辺緑化滞在空間社会実験等検討業務
●グリーンインフラ官民連携プラットフォーム活動支援業務
●グリーンインフラ官民連携実行計画作成支援業務
●官民連携まちなか再生推進事業 普及啓発事業
運営業務(国土交通省)

令和6年度 ●大宮駅周辺地域戦略ビジョン推進業務
●大宮駅周辺緑化滞在空間社会実験等検討業務
●ストリートデザインスクール札幌
企画検討・運営業務(札幌駅前通まちづくり株式会社)

令和7年度 ●大宮駅周辺地域戦略ビジョン推進業務
●大宮駅周辺緑化滞在空間社会実験等検討業務

ストラテジー

ストリート

パートナーシップ



まちづくりガイドライン等検討業務 | H29-R2
まちづくりガイドライン策定支援

1 業務概要 大宮駅GCS(Grandセントラルステーション)プランの実現に向け、広場・街路や民間事業によるパブリックスペースを対象としたガイドラインを検討しました。都市景観や人流の視点から、利活用を前提とした公共空間の設えや機能を整理し、駅周辺における都市空間形成の方向性を示しました。

2 UDCOの支援内容 GCS推進会議への参画に加え、「デザイン調

業務概要 整WG」を実施。議論とパース・模型による可視化を重ねながら論点を整理し、まちづくりガイドラインのとりまとめを支援しました。

3 成果・波及効果 市民・行政・民間の協働による議論を通じて空間形成の指針を整理。都市機能と地域の個性を調和させる方向性を示し、基盤整備と再開発を横断する公共空間のあり方を提示しました。



大宮駅周辺地域戦略ビジョン推進業務 | H29-R7
賑わい創出社会実験
マネジメントの仕組みづくり

1 業務概要 請の事務局機能を担うことで、地域主体による社会実験の運営ノウハウを蓄積しました。

3 成果・波及効果 主体がUDCOから地域へ移行し、関係者の可視化により合意形成が円滑化。民間・地域との連携を基盤に常設化・制度化が進み、持続的ににぎわいを生む中間支援モデルとして他地域にも応用可能な枠組みが形成されました。

2 UDCOの支援内容 道路予定区域を活用したキッチンカー出店などのにぎわい創出と効果検証を実施。実行委員会体制やルール策定を支援し、協議・申



大宮駅周辺地域戦略ビジョン推進業務 | R4-R7
まちづくり関心層のコミュニティづくり

1 業務概要 を組み合わせた交流形式を設計。登壇者と参加者の相互理解を深め、UDCOが主催・ディレクションとして、有志と協働で運営しました。

3 成果・波及効果 幅広い年代が参加し、地域活動への参画意欲が向上。商店会、市民団体、新住民、子育て世代など多様な層がつながり、新たな活動が生まれました。継続開催により、担い手形成の「苗床」として機能しています。

2 UDCOの支援内容 テーマ設定と地域登壇者のコーディネートを行い、ショートプレゼンと地元店舗による飲食



公共施設再編まちづくり推進検討業務 | H30
公有地における公民連携事業の検討

1 業務概要 トチーム運営を支援。事業手法の検討と並行して合意形成を後押し、市の検討プロセスを前進させました。

3 成果・波及効果 市民・専門家・次世代の声を反映した合意形成プロセスを構築。大宮駅周辺のまちづくり動向を踏まえた再編議論が進み、単なる更新に留まらない都市経営的視点の導入モデルとなりました。

2 UDCOの支援内容 パブリックミーティングで市民・専門家・次世代層から意見を収集し、行内横断のプロジェクト



歩行者専用道路設計コーディネーター業務 | H30
街路空間の計画・設計
合意形成・コーディネート

1 業務概要 水川参道の約450m区間の歩行者専用化に伴い、歴史・文化を踏まえた景観形成と利活用方針を検討し、安全で快適な歩行者空間の創出を目指しました。

2 UDCOの支援内容 土木景観デザイン事務所と協働し、舗装・照明などのデザインを検討。市民ワークショップで景観の考え方を共有し、模型やモックアップで具体的な設えを議論し、使い方・伝

業務概要 え方・設え方を総合的に調整しました。

3 成果・波及効果 市民・行政・地域団体が協働するプロセスを確立し、文化的景観を継承する基盤を形成。歩行者専用化に向けた景観整備の方向性を明確にし、安全で誇りある参道づくりに寄与。公共空間設計の合意形成モデルとして他地域への展開可能性も示しました。



大宮駅周辺地域戦略ビジョン推進業務 | R5-R7
地域プレイヤーの育成と実行組織の立上げ

1 業務概要 ロセスを伴走支援。修了後も関わるOBOG体制を整え、世代を超えた知見継承とネットワーク形成を推進しました。

3 成果・波及効果 受講生が実践を通じて公共空間活用の担い手として成長。新たな活動や実行組織が生まれ、自律的な運営体制が構築されました。育成した人材コミュニティが他地域のスクール展開にもつながっています。

2 UDCOの支援内容



アーバンデザインセンター大宮設立準備業務 | H28-R9
中間支援組織の設立・検討

1 業務概要 「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」の実現に向け、中間支援組織UDCOの設立・運営基盤を整備。組織体制・規約・空間整備・関係者調整を行い、理念と役割を明確化し、地域に必要な中間支援のロードマップを整理しました。

2 UDCOの支援内容 設立準備会で運営方針・規約案を検討し、人員体制と活動方針を整理。まちづくり拠点「まちラボおのみや」では広報ツールや受付管

業務概要 理など運営体制を構築し、地域団体が活動しやすい環境を整えました。

3 成果・波及効果 まちラボは年間約1500人が利用する活動拠点となり、地域の情報発信・事業創出を支える中間支援のロードマップを整理しました。



緑化滞在空間社会実験等検討業務 | R4-R7
緑化滞在空間のデザイン
維持管理の仕組みづくり

1 業務概要 都市緑化と滞在空間の創出を目的に、歩道や軒先、公園などで「ストリートプランツ」の社会実験を実施。小さな公共空間の質向上と歩行回遊性の改善、維持管理体制や費用確保の仕組みを検討しました。

2 UDCOの支援内容 協賛・購入可能な仕組みを公共空間で運用し、場に応じた空間設計・植栽選定、沿道関係者との協働管理体制を構築。協賛収益を

業務概要 維持管理費に充当しつつ、人流・行動・緑視率分析で効果を検証しました。

3 成果・波及効果 滞在性が向上し、沿道店舗の利用促進に寄与。6年間で延べ26カ月設置し、約325万円の協賛収益を運営費に活用。地域産業や商店会との連携が生まれ、都市型グリーンインフラのモデルとして評価されています。



官民連携プラットフォーム活動支援業務 | R4-R6
官民連携プラットフォームの立上げ
運営・PJ組成

1 業務概要 地域ステークホルダーによる都市緑化と公共空間活用を進めるため、公民連携体制を構築し、グリーンインフラ事業の検討と運営モデルを形成しました。

2 UDCOの支援内容 大宮駅周辺グリーンインフラ官民連携プラットフォーム(GIAP)の立ち上げを支援。ストリートプランツを基盤に、雨水分析や緑化ネットワー

業務概要 クなど地域課題を可視化し、未来ビジョンの策定や事業組成、運営支援を行いました。

3 成果・波及効果 プラットフォーム構築により、グリーンインフラ事業の継続検討と地元事業者との協働体制が確立。民間主導の資金循環や地域の緑化プロジェクトが生まれ、持続的なコミュニティづくりが進展しました。

1 ストラテジーデザイン
公民連携型まちづくりの戦略づくり

2 ストリートデザイン
公共空間利活用によるまちの活性化

3 パートナーシップデザイン
公民連携体制の構築